

カラスザンショウ

[木本] 《嗜好》



枝先から複葉を四方に広げる。



若木。幹の先端に葉を広げる。



若木の刺。大きな木でも刺の跡はある。

区別のポイント

幹に刺があり大きくなっても跡が残る。種子にしわがある。標高 300m まではカラスザンショウが多く、それ以上の山地ではヤクシマカラスザンショウが多い（葉軸が赤味帯び）。

形態 落葉高木。

分布 本州・四国・九州

名前の由来 カラスが実を食べる、またはサンショウより大柄なことから。

葉 **〈全体〉**奇数羽状複葉。27～80 cm、小葉は広披針形、8～15 cm。

〈付き方〉互生。枝の上部に集まって付く。

〈葉柄〉小葉の柄は約 2 mm。 **〈基部〉**小葉の基部は円形。

〈葉先〉小葉は鋭尖頭。 **〈縁〉**小葉は鈍鋸歯。

備考 物理的防衛種であるが、葉の嗜好性は高い。密度増加地域では、急速に減少する。一方、稚樹は高密度地域でも残ることがある。

出典 1, 15